

令和元年度 第2回

丹波市地域公共交通活性化協議会
(丹波市地域公共交通会議)

議 事 録

閱覽用

1 開催日時 令和元年 11 月 25 日（月） 午後 3 時 00 分 開会

2 開催場所 丹波市立柏原住民センター

3 出席者 (委員)

北川博巳	会長	大野亮祐	副会長
本間和典	委員	蘆田長門	委員
足立利昌	委員	中川武	委員 [代理]
石田光	委員	藤浦俊行	委員
瀬川雅史	委員	永井正伸	委員
山田吉晴	委員	長田貴	委員
畑幸一	委員	太田嘉宏	委員

委員 14 名出席

(オブザーバー) 三宅豊文

(デマンド(予約)型乗合タクシー運営者) 藤本泰男

4 欠席者 水田節男 委員 中辻剛 委員
岩野住之 委員

5 会議に付した議題及び案件とその内容

1) 開 会

2) 会長あいさつ

3) 報 告

(1) のってまもろう！ちいきのこうきょうこうつうイベントについて

4) 議 事

- (1) デマンド交通の状況分析について
- (2) 路線バス利用増進の取り組みについて
- (3) 「てくてくたんば」令和2年3月発行について
- (4) 令和元年7月のバス路線再編後における公共交通体系について
- (5) 福祉による移動施策について

5) そ の 他

6) 閉 会

(事務局)

お待たせいたしました。準備が整いましたので、只今から、令和元年度第2回丹波市地域公共交通活性化協議会を開催させていただきます。委員の皆様には、大変お忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございます。また福祉交通部会の皆様には引続きの会議になりますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

まず、委員の就任について1件ご報告をさせていただきます。本日もご欠席ではございますが、公益社団法人兵庫県バス協会専務理事水田節男様には、兵庫県バス協会の役員改選に伴いまして今回委員としてご就任をいただいておりますので、ご紹介いたします。また欠席のご連絡でございますが、運輸管理部兵庫陸運部輸送部門主席運輸企画専門官岩野住之様、また丹波市老人クラブ連合会会長の中辻剛様につきましては欠席の連絡を受けておりますのでご報告をさせていただきます。また本日、丹波市身体障害者福祉協議会会長塩谷泰久様の代理として、副会長の中川武様にご出席をいただいております。

次に、本日お配りしております資料の確認をさせていただきます。

[事務局より配布資料の確認]

それでは以降の進行につきましては会長にお願ひいたします。

(会長)

どうも皆さんこんにちは。先程福祉交通部会から続けて出席いただく方、ご苦労さまでございます。引き続き公共交通活性化協議会ということでよろしくお願ひします。

本日会議の前にデマンド予約センターに行き、様子を見せてもらいました。デマンド交通の利用状況から、丹波市のいろんな地域の姿が見えてきました。最近ではキャッシュレス化が進み、IT化やICT化等、本当に時代が進んできたなと思ひながら、拝見しました。

まずは報告事項について事務局より説明をお願ひいたします。

[のってまもろう！ちいきのこうつうイベントについて説明]

(事務局)

また追加の報告事項として、お手元に資料はありませんが、前回の第1回目の公共交通会議でご質問がございました、丹波市クールアースデー実行委員会が開催しております、毎月22日のノーマイカーデーの取り組みについては、丹波市役所の職員の参加人数のご報告を次回の報告としておりました。

平成30年3月から平成31年2月の参加者数につきましては延べ107名の参加がございました。なお前年の同期間での参加者数は延べ122名であり、若干減少しております。今後につきましては、さらに職員へのノーマイカーデーの公共交通機関の積極的な利用を呼び

掛けてまいりたいと考えております。

(会長)

ありがとうございました。これにつきまして何かコメント、ご質問ありますか。
今回のイベントの参加者は子どもが多かったのですか。

(事務局)

お子様連れの方を中心にご参加いただきました。

(会長)

これまで公共交通の交通バリアフリー教室は神戸や大阪等都市部での開催が多かったように感じています。今回国土交通省近畿運輸局の協力も得て啓発活動ができ、450人も参加いただけたことが良かったと思います。

ノーマイカーデーの取組はバスの利用に直結するので、もう少し啓発活動をしていただければと思います。

それでは次は議事に進みます。まずデマンド交通の状況分析について事務局から説明をお願いします。

[デマンド交通の状況分析について説明 資料：別紙1～別紙2]

(会長)

ありがとうございました。出来事としては7月8日に、丹波医療センターの外来が開始されたということですね。それから年間利用者数が3万人くらいに達する見込みという報告だったと思います。大体利用が安定していると思いますが、これにつきましてご意見等はいかがでしょうか。

デマンドの運行をされている方にコメントをいただければと思います。

(委員)

デマンドの運行について、丹波医療センターの開院以降、お客さんの流れが変わってきているように感じます。今まで柏原地域内にあった県立柏原病院と柏原赤十字病院が新病院に移り、かなりの方が利用されているようです。

お客様に関してはデマンドタクシーで石生駅から丹波医療センターも多く、デマンドタクシーで通院される方が目立ちます。あとの駅では、市島駅や黒井駅でも、電車やバスから降車され、デマンドタクシーに乗られる方も多数あります。

(会長)

続いて路線バス利用増進の取組について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

路線バスの車内装飾について申し上げます。6月10日から9月24日につきましては夏のイメージの装飾でバス、小型低床バスの車内を飾り付けしておりました。9月25日から12月上旬には紅葉をイメージした装飾を現在施しています。この季節毎の装飾に加え、のってまろう！ちいきのこうつうイベントの「ぼくの・わたしの路線バスお絵かきコーナー」にてご応募いただいた作品を、丹波市を走行しております小型低床バスの車内に掲示することも考えております。

これにつきましては、目的地へ移動するというバス、移動するためにバスに乗るという目的に加えて、バスに乗ってみたいと思っただけのきっかけになればと考えております。

(会長)

ありがとうございます。今回はいつもの装飾に加えて、11月16日のイベントで応募いただいた作品をバス車内に掲示することは、結構インパクトがあると思います。

神姫グリーンバスのご協力もあってできることですので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

神姫グリーンバスから、バス全体について何かあればお伺ひしたいと思ひます。

(委員)

現状の路線バスの関係については、7月に路線の再編を行い、丹波医療センターへ乗入れております。乗入れから徐々に増加傾向にあるというのは聞いております。特に医療センターの職員の方の駅からのご利用は多いと聞いています。

それから谷川方面から新しく路線を引きました。詳しい現場の現状について篠山営業所長から伝えます。

(篠山営業所長)

失礼します。報告の前に一言お礼申し上げたいと思っております。この度の丹波医療センター開設に伴うバス路線の再編におきましては、この交通会議で協議検討いただき、また関係各所への説明会、調整等ご尽力いただきありがとうございました。今後も密な連絡で公共交通活性化に努めてまいりたいと思ひます。

7月からの丹波医療センター開設に伴う乗降調査を3回実施しております。7月に2回、9月に1回実施し、それぞれ1週間の期間で人数等調査を行いました。中でも柏原駅発医療センター行きの利用者が目立って多くなっております。石生駅に関しましても病院関係者や電車やバスを乗り継ぐ方の利用も増えており、今後期待したいと思っております。ただ

少しバスの遅延があることから、近いうちにダイヤの調整を行いたいと考えています。

山南線の利用者も増えており、丹波医療センターの乗降調査も独自でしており、1日の乗降が65人を超える日もありました。ただ谷川駅から丹波医療センターに関しましては、利用者は少ない状況ですので、今後の課題でもあると思っております。地元住民説明会やバス停周辺の世帯への宣伝活動等で利用増進を図りたいと考えております。

(会長)

はい、ありがとうございます。軒並み丹波医療センターに関する交通が充実しています。特に石生駅を中心にバス路線を再編した効果が表れています。

続いて、「てくてくたんば」の令和2年3月について事務局より説明願います。

(事務局)

「てくてくたんば」につきましては、令和元年6月発行の「てくてくたんば」から市内全戸配布しており、次回発行の令和2年3月号も、市内全戸配布を予定しています。また併せて従来同様、医療機関や薬局、商店、また公共施設等に配置設置し、広く皆様のお手元に届くように工夫を重ねていきます。

また現在、スポンサー欄による広告収入を検討しており、次回から発行する「てくてくたんば」にスポンサー欄を掲載することも含めて、広告収入を確保する事等を検討しております。デマンドタクシー等の公共交通機関へ行くことのできる店舗等がスポンサーとして掲載できれば、「てくてくたんば」を読む方にとって、より充実した公共交通ガイドになると考えています。

(会長)

はい、ありがとうございます。今回も全戸配布ですね。それからスポンサー欄を設けることが新しい取組です。これにつきまして何かありますでしょうか。

(オブザーバー)

スポンサー欄を設けるということですが、最近流行っていると思います。デマンドタクシーで利用できるお店で、例えば、ドラッグストア等に駐車場を決めてもらい、そのお客様にデマンドタクシーを呼んでもらうことで、スポンサーになってもらうケースが他の事例があるので検討していただければと思います。

(会長)

情報提供ありがとうございます。スポンサー欄を設けて広告収入を得ることは大事なことでと思います。広告収入はどれくらいを想定されていますか。

(事務局)

この冊子は情報量が多く、文字が小さいことが課題です。限られたスペースの中ですので、ページの下の方に一定の枠を取って、スポンサー欄を確保できないかと検討しております。

また金額等につきましても先行事例があると伺いましたので、他市町で取組まれている先行事例も勉強しつつ、金額を設定したいと考えます。

(会長)

ありがとうございます。これにつきまして何かございますか。それでは次に進めて行きます。令和元年7月のバス路線再編後における公共交通体系について説明をお願いします。

[令和元年7月のバス路線再編後における公共交通体系について説明

資料：別紙3～別紙4]

(会長)

ありがとうございました。丹波医療センターができましたので、今後の長期的な話にもなります。実際デマンドタクシーについて資料の確認ですが、別紙の3と4は医療機関と公共交通施設での降車回数の動向です。改めて見ますと今まで大きな病院中心に向かっていたものが、どちらかという、かかりつけ医の方にシフトしている様子です。柏原地域では前年の7月から9月が385名、本年の7月から9月が375名で変わらない感じですが、地域によって濃淡の差がありますが、全市的には総合病院に行くという割合が減少し、それぞれかかりつけのお医者様に通院されており、社会福祉的には良いことをやっているのではないかなと思う所もあります。

それから、デマンドタクシーから路線バスや鉄道への乗り換えについて報告がありました。やはり公共交通としてデマンドタクシー、路線バス、それからタクシー、福祉交通もこれから入るとなると、かなり連携の軸が揃ってきており、交通網としては出来上がっている感じではないかと思えます。

今後、人口減少、高齢化の中で、まちづくりとしてどうなのか、どんな形を今後20年、30年かけて求めていくのかという部分があります。そういう部分も踏まえて公共交通がどうかという役割を担うのか、デマンドタクシーはかなり重要な役割を担っているのではないかと思えます。

平成25年7月に、丹波市地域公共交通活性化協議会で総合病院へのデマンドタクシーの運行に関する協議を行い、公共交通の活性化や、再生地域医療の役割分担の点においてデマンドタクシーは非常に役立っており、総合病院への直通運行はしない方がいいという結果になったと思えます。

私から補足の説明をさせていただきましたが、何かお気づきの点や、ご意見等あれば、お伺いしたいと思いますがいかがでしょうか。

丹波医療センターへの交通で、路線バスによるアクセスについて、路線バス事業者から一言お願いします。

(委員)

丹波医療センターに関しては、柏原駅と丹波医療センターの直通バスの運行もしており、路線バスの利用状況について少し明るさが見えてきたと感じています。

デマンドタクシーですと、柏原地域の方は最寄りの施設で降車され、歩いて移動されているようです。路線バス事業者としましては、お客様の取り合になることは困りますので、やはり現在の状況維持していただける方が良いと思っております。

(会長)

ありがとうございます。例えば柏原駅からのアクセスが多いのか、石生駅からのアクセスが多いのか、同じくらいでしょうか。

(委員)

朝一番に丹波医療センターへ乗り入れしているバスには、職員の方がほぼ毎日乗車されている様子で、職員の方のご利用が多いのではないかと思っております。

(会長)

多分自動車ユーザーが結構多いのではないかと思います、それは大事な話ですね。デマンドタクシーはどうか。現状の通院に関する話をお聞かせください。

(委員)

通院に関しましては、氷上地域の方はご自宅から直行で丹波医療センターへ行けますので、ご利用はかなり増えております。今まででしたら駅等にお送りして路線バスや電車乗り換えで柏原病院や柏原赤十字病院へ行かれていた方が、デマンドタクシーで直接行けるようになったことが増加の要因だと思います。

柏原地域の方に関しましては、柏原駅から路線バスで医療センターに行く場合、270円で行くことができ、デマンドタクシーの1乗車300円より30円安くなり、多分柏原地域の方は路線バスを利用される方が金銭的にも安くなります。柏原駅まで徒歩で行けない方は、デマンドタクシーで丹波医療センター最寄の商店を経由し、歩いて行かれる方もあります。

(委員)

丹波医療センターが開院してから、柏原駅の流れが変わりました。

タクシーで丹波医療センター行かれる柏原地域の方は減っており、路線バスの利用が増えているようです。

タクシーで柏原駅から柏原病院へ行く場合と丹波医療センターへ行く場合では、料金が2倍ほどの料金がかかります。大新屋方面（新井小学校区）の方は柏原病院へ行くのも丹波医療センターへ行くのも同じくらいの料金ですので、大新屋方面の方はタクシーで丹波医療センターへ行かれる方もあります。人の流れが全体的に変わってきたと思います。

（会長）

タクシーはタクシーの課題があるということですね。

それから今日の午前中にデマンドタクシーの予約センターを訪問し、予約状況や車両の運行状況を確認しました。午前中のほとんどの便に6人くらいの乗車があり、1便の運行範囲を今より広範囲に変更するのは困難な部分もあると感じました。例えば丹波医療センターまで運行範囲を広げると間違いなく座席が満杯になりますし、1時間に1便を運行することは無理だと思いました。

やはりデマンドタクシーはひとつのエリアを移動する乗り物だという意識づけをしなければならぬと思います。「てくてくたんば」もたくさん発行しているので、経済的な移動方法や、乗り継ぎによる移動がお勧めだということ等、少し上手なプロモーションの必要性を感じます。

基本的に公共交通網ですから、市としての公共交通網が完成しつつある様な状況で、一定の方向性としては、公共交通は連携しており、利便性と持続性のある公共交通を展開するにあたっては地域の活性化も大切だと思います。

皆さんいかがでしょうか。

（委員）

別紙4の公共交通施設（駅・バス停）でのデマンドタクシーの降車回数について、合計で前年同期比48回の増加とあり、その要因は鉄道駅までのデマンドタクシーの利用が多いと思います。これはデマンドタクシーで駅へ行き、鉄道を利用して石生駅まで行って、そこから丹波医療センターまでバスで移動されている方が増えているのではないかという推測をおっしゃっていただきましたけども、この数字との関連等分かっていたら教えていただきたいと思います。

（事務局）

デマンドオペレーターは降車場所までの予約を受け付けますが、デマンドタクシー降車後どこに行かれるのかは確認していませんので、駅での降車後の移動について今この時点でお答えできない状況です。

（会長）

デマンドタクシー降車後の追跡はできていないので仕方ありません。ただ、デマンドタク

シーの利用で一番多いのは買い物で、次に医療機関への利用です。その次が駅ですので、それが増えているというのは良いことで、公共交通の乗り継ぎ利用が増加傾向にあるということですね。

その他いかがでしょうか。

(委員)

いま会長からデマンドタクシーによるお出かけ先の話がありましたが、お出かけ先の資料はありますか。

(事務局)

お出かけ先の資料は本年度第1回目の会議資料としてお示しし、今回はお示ししておりません。

(委員)

デマンドタクシーによるお出かけ先の割合が分かれば教えてください。

(事務局)

平成30年度は商店が36.2%で一番多く、2番目に多いのが病院で33.3%です。

(委員)

デマンドタクシーによるお出かけ先の前年7月～9月と本年の同期間の変化が知りたいのですが、比較はできていますか。

(事務局)

3か月での比較では出来ていない状況です。

(会長)

確か近年、病院よりも商店への利用が上回りました。そういう意味では生活に役立つ交通手段ということを改めて認識しました。ただデマンドタクシー利用者の生活スタイルとして、8時便と12時以降の便の利用が少なく、丹波医療センターにデマンドタクシーが直結しても、8時便と12時以降の便での利用は多くないでしょう。

(委員)

タクシーやデマンドタクシーの利用において、高齢の方で8時までに病院に行く方はほとんどありません。医療機関もデマンドタクシー利用者の予約は9時から12時までに予約受付されるようなので、9時便、11時便、12時便に利用が集中するようです。午後の診察

は16時間以降になりますから、デマンドタクシーの便はありません。

それから、高齢の方は病院へ行ったついでに買い物をされる方が多いようです。ですので、行きは病院で降車し、帰りの乗車はショッピングセンターやスーパーが多いようです。

病院の受診が終わる時間が分からないので、受診後買い物をして帰る時間に合うように、デマンドタクシーの予約をされている傾向です。

(会長)

ありがとうございます。我々が考えるまでもなく、上手にご利用いただいていますね。

(委員)

別紙4のデータの鉄道駅での降車ですが、3割弱増加しており、かなりの増加だと思えます。駅でデマンドタクシーを降りてからの行き先を考えると、丹波医療センターが出来たという事が大きく、やはり丹波医療センターの利用者が多く利用されていると推測されます。

お客様がデマンドタクシーとJR、そしてまた路線バスを上手に使われていることが想像でき、公共交通網が活かされていることだと思えます。

(会長)

将来のまちづくりの姿としても良いことだと思えます。

あとは料金について、シームレス化するという事も考えられます。交通系ICカード等が使用できる決済機のデマンドタクシーへの導入についても、地域の中でのキャッシュレス化への対応になり、今後の公共交通体系の一つになるのではないかと思います。

(事務局)

デマンドタクシーの支払い方法ですが、令和2年度以降にIC決済機を導入することについて検討中で、鉄道からの二次交通において、キャッシュレス化に対応できる環境整備を進めていきたいと考えています。

(委員)

デマンドタクシーへのキャッシュレスの導入について、もう少し具体的に聞かせてください。

(事務局)

デマンドタクシーにICOCAを含む交通系ICカードが使える端末をリースでの導入について検討中ですが、具体的にどの種類の電子マネーまでの対応になるのかは決めている状況です。

(事務局)

補足しますと、どちらかというとも商店にある様な決済機のイメージの端末を導入できないか考えています。

(会長)

副会長いかがでしょうか。

(副会長)

方向性としては、今の公共交通網をある程度維持すべきであるという思いですが、その割にまだ住民の方については、その理解がなかなか得られてないというのが実情であります。

柏原地域におきましても地域共生社会の実現に向けて、どういう取り組み進めればいいのか検討する中で、ある程度交通という問題を重要視されています。デマンドタクシーにつきましても便利に、旧町域を越えて、例えば丹波医療センターが柏原地域と隣接しているので、旧町域を越えて運行してほしいという意見がありますが、現在の地域内運行のルールを崩すことの良し悪しに関する問題については、私の立場としては、出来るだけ現状維持をするというのが基本的な私の考えです。

地域の方に理解していただき、長く続く交通網体系を維持していくかということが大事だと感じています。

(会長)

ありがとうございました。その他いかがでしょうか。

(委員)

先程のデマンドタクシーにおけるキャッシュレス決済の導入についてですが、デマンドタクシーの利用者の約7割が回数券の利用です。11枚綴りで3,000円又は2,000円の券で、それぞれ1枚サービスになるため、回数券の利用が7割以上あります。

今後キャッシュレス決済を導入してからの変化について、市・商工会・運行事業者の三者で協議しておりますので、回数券利用者とのバランスを判断しながら、キャッシュレス決済の導入について検討中ということをお補足します。

(会長)

キャッシュレス化社会への対応について準備をしておいた方がいいと思います。

ここまでで概ね意見が出そろったようですので、本日の意見を基に、次回の交通会議を目的に方向性を示したいと思います。よろしいでしょうか。

(事務局)

今回の会議で一定の方向性をお示しいただける様に、会長とも相談しながら事務局として準備を進めます。

(会長)

今回の交通会議での資料等につきましては、私と事務局の方で作成をしたいと思います。それでよろしいですか。異議はないということですのでまとめの案を作成いたします。よろしく願いいたします。

続いて、福祉による移動施策についてです。今日午後1時半から福祉交通部会を開催いたしました。

今後丹波市で暮らしていく中で交通網体系の一つとして考えた時に、例えば高齢者の外出支援等の施策もあります。予算ことや事業の内容についてご意見をいただき、案として今回皆様にご提示いたします。

それでは事務局より説明をお願いします。

[福祉による移動施策について説明 資料：②]

(会長)

ありがとうございました。

元気な方、丈夫な方でデマンドタクシーに乗ることができる方は、なるべくデマンドタクシーをご利用いただき、お出かけサポートでないと外出できない方への対応についても、安定した運行体制の確保について費用負担のことも含めて、交通会議として考えなければなりません。

副会長いかがですか。

(副会長)

今の総合的に社会保障の流れとして、どっちかという切り詰めるというか、サービスが縮まっていく、少なくなっていく様な感じがするのですが。他の市での事例との関連がどうかというのは私が一つ感じる所です。

それから厳しい社会情勢の中で地域づくりを大事にしていくという事で、高齢者支援等も地域でどう確保していくかという議論が始まりますので、新しいお出かけサポートがあまりにも突出しすぎると、これに頼り過ぎるので、地域と離れても生活できるという方向へ進む可能性もあります。そのことについてもう少し私どもも、地域の方と議論をする中で、サービスを決めることができたらと感じます。

(会長)

他のサービスも大事ですね。ただ実施してみないと分からない部分もあります。公共の福祉の交通の事を考えなければならない時代の流れの中で、課題を把握して、それに対して仕組みを変えていくスタイルアップが大事です。しばらくは激変緩和や、テスト運行の予定についても確認させていただければと思います。

(事務局)

今、会長からございましたテスト運行に関しましては、利用される方々は障がいのある方が多くあります。

今まで社会福祉協議会のドライバーが迎えに来られていたのが、急にタクシードライバーが迎えに来たという事になると利用者の方が混乱されてもよくありません。

テスト運行を実施することで、今まで社会福祉協議会のドライバーからタクシー会社のドライバーに変更になることや、無料で利用できていたサービスが今後有料になること等に向けて、少しずつ慣れていただければと考えております。

(会長)

福祉制度の中でのバランスについては、引き続き検討していくことになりますか。

(事務局)

現在地域づくりの観点から、また福祉の中で将来に渡って、高齢になってもどのように自分が暮らしたい地域にしていくのか、自助や互助のあり方も含め、その地域に応じた助け合いについて、地域の協議体を作っていただいで検討していただいでおります。

このような中で、移動支援の他にも様々な課題がありますので、地域課題の解決方法も併せて検討していただいでおりますので、その際には各地域へ説明に行く必要があると考えています。

そして介護保険サービスの訪問型事業もあるので、市内には社会福祉法人や様々な団体にも相談しながらいろいろな形を模索したいと考えています。

(事務局)

ただ今の内容に追加になりますが、これまでの福祉交通では、利用回数に制限がありませんでしたが、今回の見直しにより一定の回数制限を設けること、また応益負担をしていただくことで、持続可能なサービスとして実施したいと考えています。

今後の事業展開としては、地域での助け合い、互助の仕組みとして運行されている鴨庄ふれあいバスもある中で、これまでのおでかけサポート事業を基に安全性や持続可能性を高め、実施していきたいと考えていますので、貴重な意見として拝聴し、今後も十分に調整いたします。

(会長)

ありがとうございます。その他、ご意見等ありませんか。

今回提案された案でよければ、今後議会にこの案を説明し、テスト運行を経て令和3年度からの本格運行に向けて進めていくこととなります。

(委員)

高齢者外出支援事業のデマンドタクシーお試し券は300円券を10枚配布で、市島地域のみバス券とデマンドタクシーお試し券の選択制となっていますが、鴨庄ふれあいバスは200円で乗車できます。

デマンドタクシーは300円又は障がいのある方等は200円での乗車ですが、金額を統一する必要はありますか。兼ね合いはどうなりますか。

また、障がい等の区分について教えてください。

(会長)

事務局より説明をお願いします。

(事務局)

市島地域は路線バスの運行エリアではないので、バス券とデマンドタクシーお試し券の選択制とし、どちらか利用しやすい方を個人で選択していただくように考えています。

その中で運賃について200円なのか300円なのかということは制度上の話になりますので、この場での回答は控えさせていただきたいと思います。

(事務局)

障がいの区別ですが、資料②の3ページ目、③のイにお示ししておりますように、身体障害者手帳、療育手帳、精神保健福祉手帳の3つの手帳があります。120枚配布予定の方が身体障害者手帳1種、療育手帳A判定、精神保健福祉手帳1級です。60枚配布予定の方が身体障害者手帳1種のうち内部障がい、療育手帳B判定、精神保健福祉手帳2・3級です。

この配布予定枚数の違いにより、移動に制約のある方と、そうでない方とに区別させていただきたいと考えております。参考にご覧ください。

(会長)

ありがとうございます。これまで福祉交通部会の中で協議を行い、本日丹波市地域公共交通会議にお諮りしております。

今後は本日お示した検討案の内容で、議会等へ説明していただくことでよろしいでしょうか。事務局から何かありますか。

(事務局)

熱心にご協議いただきありがとうございました。この制度は登録制ですので、誰もが自由に利用できる制度とは異なります。会長、副会長はじめ皆様にご協議をいただきましたので、この後市役所の庁内でこの制度設計を十分に練り、方向性を出してまいりたいと思いますが、その中ではこれから運行事業者や、オペレーターのこと等、課題が様々ございますので、施行に向けてこの制度の改正に取り組んでまいりたいと思います。

次回の第3回の丹波市地域公共交通会議には、このようになりましたという報告ができればと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

(会長)

はい、ありがとうございました。その他、何かございませんか。

(委員)

会議の終わりにすみません。最近の運転免許の返納率について教えていただけませんか。

(委員)

4月の東京池袋での事故以降はぐっと増えました。正確な数字ではありませんが、10月末で300名程が返納されていると思います。1ヶ月に30名程度、1日に1人は返納されている計算で、毎年返納件数が増えている状況です。12月からは運転免許が失効した方も運転経歴証明の申請ができるようになります。

また、運転免許を返納された方には、返納窓口にてデマンドタクシーの利用案内もお渡ししています。

(会長)

ありがとうございます。それは大事なことですね。

その他何かありませんか。よろしいですか。

(事務局)

その他につきましては次回会議の開催日です。

次回につきましては令和2年2月の末から3月中には開催をさせていただきたいと思っています。再度日程調整を行い、改めて皆様にご案内をさせていただきます。

(会長)

年度末になりますが、ご協力をお願いします。

では閉会にあたり、副会長お願いいたします。

(副会長)

本日は第2回の会議ということで、福祉部会の方もみなさん長時間に渡りご協力ありがとうございました。一定の方向性が見えたように思います。

以上をもちまして本日の会議は終了とさせていただきます。ありがとうございました。